

一年生でならったかん字をつかいこなそう

四かくにあてはまる かん字を かきましよう。

① 火ひ のついたようになく

大声でなくようす。

② 犬けん えんのなか

なががるいことの たとえ。

③ 竹ちく 馬ばの友とも

おさななじみ。

④ 道みち 草くさ をくう

とちゆうでより道をすること

⑤ 花はな よりだんご

見てうつくしいものより、やくだつものをえらぶこと。

⑥ 口くち 車くるまにのる

上手な言いかたにのせられる。

⑦ 一いつ 石せき 二に 鳥ちよう

ひとつの石をなげて、二わのとりをおとすこと。

⑧ 三さん 人にん よれば文もんじゆのちえ

三人でそうだんすれば、よいちえがうかぶこと。

⑨ 青せい 天てん 白はく 日じつ

やましいことがないこと。

⑩ 天てん 地ち 無む 用よう

にもつの、上と下をぎやくにしないうようにといういみ。

⑪ 木き を見て森もりを見ず

ぜんたいを見ないことのたとえ。

一年生でならったかん字をつかいこなそう

四かくにあてはまる かん字(すう字)を かきましよう。

① 二 に

のあしをふむ。

ためらうこと。

② 三 み

つごのたましい百まで。

小さいころのせいかくは、そのあともずっとかわらないこと。

③ 二 に

のまいをえんじる。

おなじしつぱいをくりかえす。

④ 千 せん

里がん。

先の先までみとおすこと。

⑤ 九 きゅう

死に一生をえる。

たすかるみこみがないが、なんとかたすかること。

⑥ 十 じゅう

人 十 と

人はみんな、せいかくや、このみなどがちがうこと。

⑦ 八 はっ

方 八 ぼう

みうごきがとれずに、とほうにくれること。

⑧ 一 いち

か 八 ぱち

けっかがどうなるかわからないが、ちようせんすること。

⑨ 一 いち

日 一 せん

秋 しゅう

一日が千年のようにながくかんじられる。

⑩ 二 に

足 二 さん

文 もん

とてもやすいこと。

⑪ 三 みつ

日 三 ぼう

主 ず

あきつぽくて、ながつづきしないこと。